

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

加茂小学校  
「学力向上実行プラン」

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 教師の授業力の向上(学校力向上サポート事業(三加茂中連携))

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 森長拓哉	委員 校長:真鍋憲人 教務主任:曾我部さち	教頭:石丸秀樹 研修主任:濱本恭代
-----------------	-----------------------------	----------------------

校長

真鍋憲人

【小中連携または中高連携における共通の取組】

自主的・意欲的に取り組む児童を育てるための「めあて」と「ふり返り」の工夫

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度が良い。 ●基礎的・基本的な知識・技能を身につけることが課題である児童が多い。(漢字・計算)	・学年相応の学力を身につけ、活用することができる。	・教員の授業力を向上させ、どの子にも分かりやすい授業づくりをめざす。 ・隙間時間や授業のはじめに小テスト、反復練習。(ICTの活用推進)	・授業力向上のための具体的施策を検討する。 ・発達段階や習熟度に応じて、小テストを定期的に行うことで定着を図る。 ・個別に指導、支援する時間を増やす。(ノートチェック)	・知識・技能を十分活用できるまでには至っていない。 ・知識・技能の定着度が2極化している学年がいくつか見られた。 ・個別に指導、支援する時間をとったことにより、力をつけた児童も多い。	・朝の活動や授業の組み立て方の工夫により、児童が練習問題に取り組める時間を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表する意欲が高く、友達の前で自分の意見を伝えようとする姿が多く見られる。 ●自分の考えを表現するときに、理由づけをして、最後まで伝えることを苦手としている。 ●自分の考えを文章にすることや、読解力に課題がある。	・他者の考えを聞き、自分の意思を示したり、反応したりすることで、自分の思いや考えをまとめることができる。	・ICTの思考ツールを活用した授業づくりの推進。 ・意見交換や意見交流を充実させられるようにする。(ペア・グループ・全体) ・学習の「ふり返り」の時間をとる	・思考ツールだけでなく、ホワイトボード等の活用も取り入れることで、全体での意見交流を充実させる。 ・ICTの活用により、個々で考える時間を増やす。	・ふり返りを書くことで、意欲にはつながっている様子が見られたが、書く力にはつながっていない。 ・CDTテストの結果から、どの学年も思考・判断・表現の力が全国平均よりも低いことが分かった。	・ふり返りを共有し、考える時間をとったり、次の学習につながるようなふり返りを書いたりできるようにする。 ・考え方や根拠を明らかにしながら説明したり、問題を解いたりできるようにすることが必要。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習準備を整え、聞くことのルールを意識して、学習に取り組もうとしている。 ●自ら進んで考え、新たな課題を見つけ、解決しようとするに課題がある。	・自分の考えをもち、他者との交流を通して、学ぶことの楽しさに気づき、協働的に解決しようとする態度を身につける。	・1時間の授業の「めあて」をしっかりもてるようにする。 ・認め合える関係性を築き、楽しんで学べる学級づくり。	・めあてをつかめるようにし、それに沿ったふり返りをする。	・めあてに沿ったふり返りをする中で、学習に意欲的に取り組む姿が見られた。 ・学習に対して意欲が低い児童には、めあての設定やふり返りの手立ての効果が薄かった。	・ふり返りから、次の学習のめあてにつながるようにしたり、ふり返り方やタイミングを工夫したりする。 ・家庭学習にすすんで取り組めるような手立てを考える必要がある。

令和6年度 学力向上ロードマップ

